

2017 年度「研究者の横顔」 成松 宏人先生

1. 研究者になろうとしたきっかけ

私は血液・腫瘍内科医として医師生活をスタートしました。1人1人の患者さんと向き合う血液内科の診療では、治療がうまくいくこともあれば、思い通りに治療が進まないこともありました。その経験を通じて、もっと多くの患者さんを助けたいと思ったのが研究者を志した最初のきっかけです。

それからいろいろな紆余曲折がありましたが、「初心」を大切に、現在の研究テーマである、がんの疫学研究に取り組んでいます。

2. 助成研究の内容紹介

この研究では、神奈川県立がんセンターのがん電話相談の記録を解析することにより、日常診療では対応できていないがん患者・家族のがん医療に対する「いまだ満たされていないニーズ」を明らかにします。

3. 2の将来に繋がる結果予想

この研究で拾い上げた、既存の医療だけではこたえられない患者・家族の「いまだ満たされていないニーズ」（いわゆるアンメットメディカルニーズ）を参考に、将来的にはがん患者・家族の QOL の向上に寄与する医療サービスを開発していきたいと考えています。

4. 全国の RFLJ 関係者に一言

「患者さん成果を還元する」ことを見据えて、研究を進めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。